

6
8
39



編郎七傳城戶
學小

本讀新易簡

三卷

野牧

房書

東

京

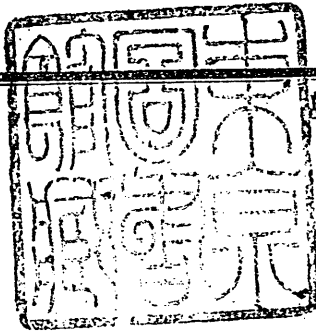


換定合格本

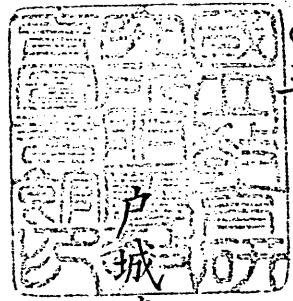
K120.8
34a
3

館籍書會育教本日大			
			二
六册	二號	一架	六函

No 10410



小學簡易新讀本卷之三



戸城傳七郎編



第一課。 税所敦子君作。

かぜの まにまに ちり はてて、
さくらは はやく みよ たりぬ。

簡易新讀本

卷三

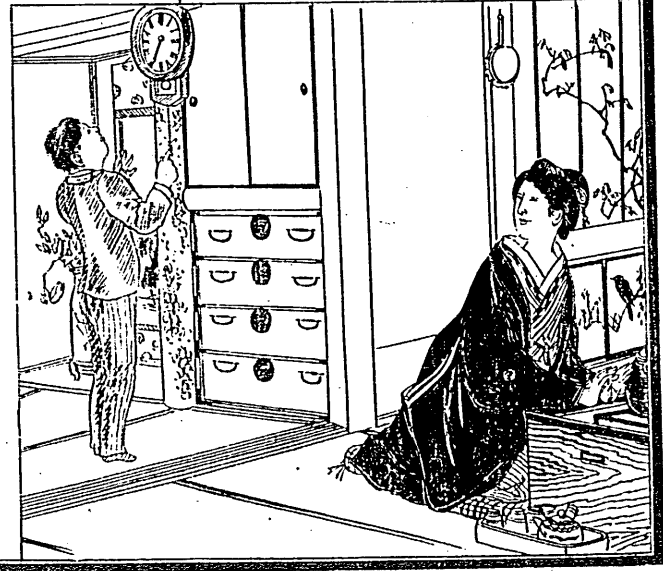
ながき はるびを いたづらふ、
くらしい みこそ はかなけれ。

第二課。

母。時計。針。支度。

太郎ハ、母ノ イヒツケヲ ウケ
テ、時計ヲ 見ニ エキタリ。 時

計ノ 針ハ、今
チヤウド、七時ノ
トコロヲ サセリ。
太郎 曰ク、母
上ヨ、今ハ チヤ
ウド 七時 ナリ。
母 曰ク、ガクカウノ
ハジマリ



ハ、八時 ナルベシ、支度ヲセ
 ヲ。
 太郎ハ、スグニ、本ト 石板トヲ
 タツサヘテ、ガクカウヘ 出デユ
 ケリ。

第三課。



船。是。伐る。毎日。
 川を 過ぎくる 船を見よ。

船の上につみ
 たるは、たきぎ
 なるべし。是
 は、彼の人が、
 山より 伐り

簡易新讀本

三

出たるを、其のいへ、まで
はこぶなり。

彼の人は、毎日、此の如く、
此の川を上り下りして、あ
またのたきぎを はこべり。

第四課。

前。家。尾。主人。

コレハ、前ニ
エガキタル、ナガ
レノスエナリ。
見ヨ、川ニチカ
キトコロニ、一
ケンノ家アリ。



家ノ前ニハ、

タカク タキギヲ ツミアゲタリ。
 彼ノ 人ハ、 今、 船ヲ コギキタ
 リテ、 川ノ キシニ ツナガントス。
 犬ハ、 尾ヲ フリテ、 主人ノ カへ
 リヲ ヨロコベリ。

第五課。



巢。中央。待つ。逃るる。

是は、くもの
 巢なり。くも
 ち、巢の中央に
 居て、はへのか
 かるを 待てり。
 はへは、巢のか
 たちを、あちら

こちらと とび まはれども、巢に
た かかること なり。

くもの 巢は、にかはの 如くよ
ねばる もの 故、一度 これよ
かかれば、はへむ、逃るる こと
あたはざる べし。

第六課。

春。見事。小鳥。第一。

今ハ、春ノモ
ナカ ナリ。サ
クラノ花ノ見
事ニサキツロヒ
タルヲ見ヨ。



アマタノ 小鳥ハ、タノシゲニ、ア
 ナタ コナタヘ トビ ウツレリ。
 ワガ 日本 ニテ、花ノ 見事ナ
 ルハ、サクラヲ 以テ 第一ト ス。
 サクラハ、外ノ クニ ニモ ア
 レド、其ノ 花 ウツクシカラズ。
 サレドモ、其ノ カハリ ニハ、ミ

ノ ツブ 大キクテ、タベモノト
 ナル。

第七課。

及物。丁度。丈八尺。何程。
 あまたの 女子 打よりて、及物
 を はかれり。



おちよが 曰ふ、
此の 反物は、丁
度 貳丈八尺 あり。
おうめ 曰く、
貳丈とは、何程の
事 なる か。

おちよ 曰く、
貳丈とは 貳十尺
の 事 なり。 此の 反物は、貳
十八尺 あるが 故に、貳丈八尺と
は いふ なり。
おうめ、尺の せりりを け
いこ せん として、自ら 其の 前
だれを はかれり。

第八課

學校。屋根。左官。瓦。

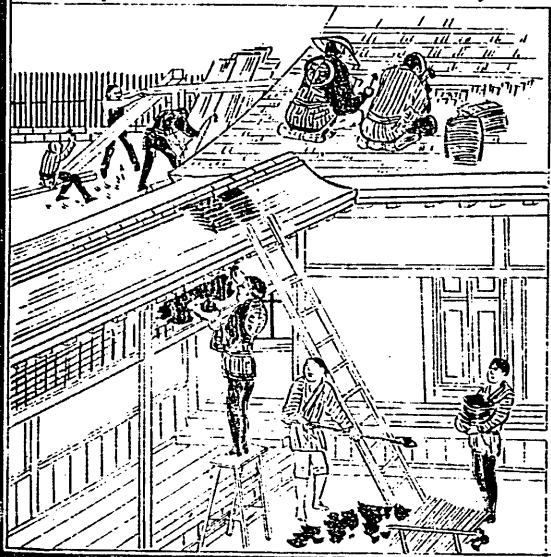
是ハ、タガ家

ナルカ。是ハ、

學校ナルベシ。

屋根屋ハ、屋根

ヲフキ、左官ハ、



カベヲヌル。瓦ヲハコブハ、

屋根屋ノデシニテ、土ヲササ

ゲタルハ、左官ノデシナリ。

ハルカノムカウニハタラケル

ハ、大エナランガ、アマリ小サ

クテサダカニ見エズ。如何ニ

大イナル學校ナラズヤ。

第九課

熊。指。食す。甘き。



汝は、熊を見
たることある
か。
熊は、山林に
すむけものな

り。足は五本の指ありて、
木のぼること甚だたくみ
なり。又人の如く、立ちて
あゆむことあり。
熊は、何を食するか。熊は、
多くくだものを食す。又甚
だ甘き物をもこのめり。

第十課

次郎。公園。建札。折る。

次郎ハ、父ニシタガヒテ、公園

ニユケリ。

父曰ク、汝ハ、此ノ建札ノ

文字ヲヨミウルカ。

次郎ハ、ステニ多クノ文字ヲ



公園の内の花を折るべからず。

知レルユエ、コ
エタカクヨミア
ゲタル、其ノ文
字ハ、左ノゴト
クナリキ。

第十一課

虫の音。秋。時節。草。失ふ。

まげよ、まげよ。まつ虫、すす

虫、くつわ虫、はたねり虫よ、まきり

ぎりす、色々の虫の音、まきこゆ。

今も、何の時節なるか。

今も、秋の時節なり。草は

よ、ねける、白つ

ゆの、月よ、うつ

りて、きらめくを

見よ。

おまつよ、虫を

ねふ、なれ。草むらむ、彼らの

家ぞ、かゝ。汝も、彼を、ね



むむ、彼らは、其のすまひを失ふべし。

第十二課。

竹。筍。然り。煮ル。真直。

竹ト、筍ト、人。此ノ人ハ、

何ヲセントテ、ヤブニ入ルヤ。



彼ハ、筍ヲホラントテ入ルナリ。汝ハ、筍ヲ食ヒシコト

アルカ。然リ、

煮タルヲ食ヒシ

コトアリ。

竹ヤブノカゲ

ニ見ユルハ、何

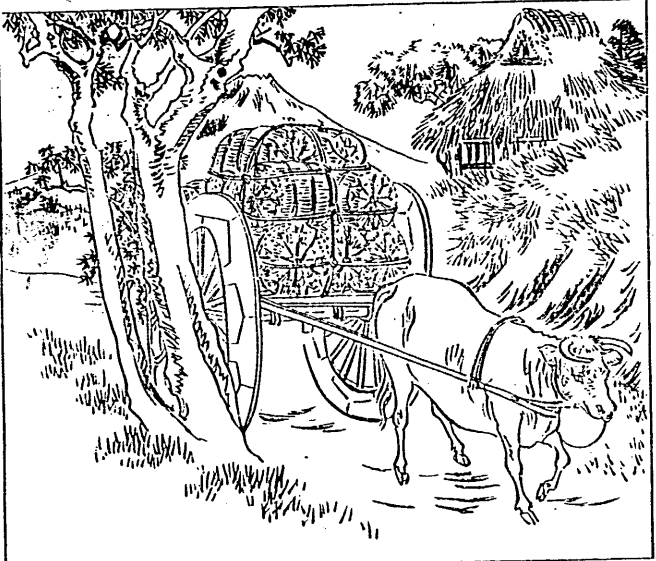
ノ 木 ナルカ。 アレハ、 杉ノ
木 ナリ。 竹モ、 杉モ、 真直ニ
ソダテリ。

第十三課。

後。 追ふ。 我等。 之。 云ふ。

牛が 車を ひきて 行く。 牛

ひく 人々、 いづくよ ありや。
彼々、 牛の 後
より 追ひ 行く
なる べし。 さ
れども、 我等は、
之を 見る こと
あたまず。



牛ひく 人を、牛かひ とも、又
牛追ひ とも 云ふ。 牛を、ねと
なすき けもの ゆゑ、よく 牛か
ひの いふことを きけり。

第十四課。

小兒。孝吉。許多。魚。



ノ 魚 アリ ト 見ユ。

池ノ ホトリニ
二人ノ 小兒ガ
立テリ。 此ノ
小兒ハ、孝吉ト
三郎 ナリ。 池
ノ 中ニハ、許多

孝吉ガ 曰フ、アレ、アノ 向ウ

ニ 泳ゲル 魚ヲ 見ヨ、如何ニ

大イナル 魚ニ アラズヤ。

三郎ガ 曰フ、アレハ、何ト云

フ 魚 ナルカ。

「アレハ、コヒト 云フ 魚 ナリ、

見ヨ、コナタヘ 泳ギ 來 タリ、

汝ノ ヤキフヲ アタヘヨ。」

第十五課。

米。麥。豆。粟。小豆。

米、麥、豆、粟、小豆 等をす

べて かくもつと 云ふ。

かくもつと、我等の 食物と

て、用ふるものなり、中よも
多く米と麥とを用ふ。

米よは、うるちともちごめと
あり。うるちをむ、めしよ たま

もちごめをむ、もちよ つく。

麥よは、大麥、小麥、等、あり。
はん、うんどん、さうめん、等、

小麥のこよて、つくりたる、ふ
り。大麥を、多く、米よ、あはせ
て、めしよ、たく。

第十六課。

枱。兩手。合。升。斗。石。

枱ハ、米、麥、又ハ、サケ、アブ

ラ 等ヲ 計ル ウツハ ナリ。

汝等ハ、枡目ノ

ナヲ 知ルカ。

知ラズハ、之ヲ

學バザル ベカラ

ズ。

一合トハ、オヨ



ソ 汝等ノ 兩手ニテ ヒトスクヒ

程 ナリ。 サテ、一合ヲ 十ニ

テ、一升ト 云ヒ、一升ヲ 十二

テ、一斗ト 云ヒ、一斗ヲ 十二

テ、一石ト 云フ ナリ。

第十七課。

植木。庭。好む。咲く。愛する。
名。

こゝえ、植木屋
の庭のけしき
なり。およろを
以て水をそ、
ぐむ、此の家の



主人なるべし。彼の人は、
甚だ植木を好めりと見ゆ。
あかく咲けるは、ざくろの花
か。やさしく竹よまつむりた
るは、あさがほのつるなるべ
し。
汝む、松のみどりの色こま

やかなると、あぢさゐの花のう
つりやすきと、いづれを愛する
か。又汝も、一々彼の草木
の名を知るか。

第十八課。

鷲。西洋王。深山。岩。野。

鷲ハ、鳥ノ中ニテナラビナキ
タケキモノユエ、西洋ノ人ハ
之ヲ鳥ノ王ト云フ。

此ノ鳥ハ、深山ノ岩ノ上ニ
巢ヲ作りテ、其ノ子ヲヤシナ
ヒ、又ツ子ニタカク空中ヲ
トベドモ、時トシテハ、食物ヲア

サル タメニ、野

ニ 下ル コト

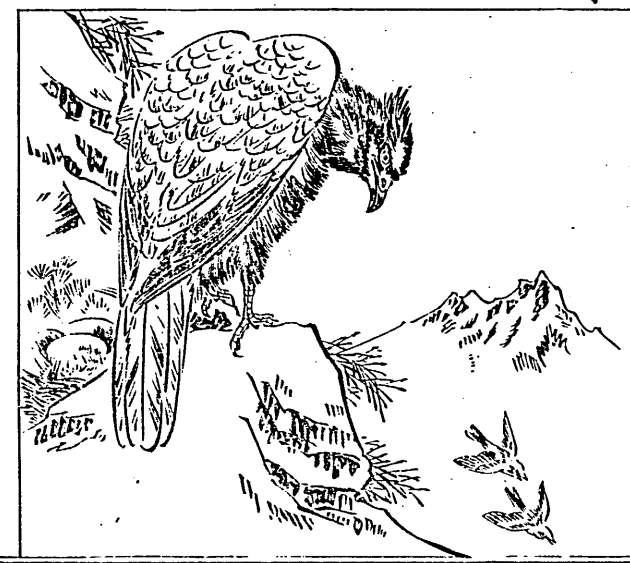
アリ。

鷲ハ、ニハトリ

ヤ スヅメノ 如

クニ、コクモツ

又ハ 草ナドヲ 食セズ、ツ子ニ、



小鳥ヤ、キジヤ、ウサギ等ヲ トリ

テ 食物ト セリ。 故ニ、其ノ

クチバシト ツメトハ、甚ダ スル

ドシ。

第十九課。

鯨。頭。形。實。海中。高さ。

許多の人々、船をこぎよせて、
鯨をとらんとす。見よ、見よ、
鯨の頭より水をふき出せり。
ねよしの曰く、鯨を、其の形
魚よにたれども、實を魚よあら
ず、海中よすむけものなりと、
先生がいへり。



次郎の曰く、
鯨と牛とを、い
づれが大なるか。
ねよしわらふ
て曰く、鯨を、
牛の如き小さ
きけものよあ

らず、其の長さは、ねよそ 六丈
 又た 七丈よも いたり、高さた、
 二丈よ いたるも あり。あの
 鯨も、とほく 海中よ あるが 故
 よ、小さく 見ゆる なり。
 次郎も、ねどろきて ねよしの
 咄しを きけり。

第二十課。

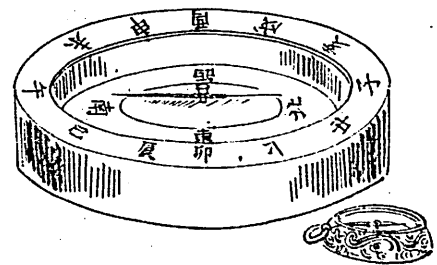
太陽。東。西。南。北。方角。

磁石。外國。

太陽ノ 出ヅル 方ヲ 東ト 云
 ヒ、其ノ 入ル 方ヲ 西ト 云ヒ、
 東ニ 向ヒテ、右ノ 方ヲ 南ト
 云ヒ、左ノ 方ヲ 北ト 云フ。

又 東ト 北トノ アヒダヲ 東北
ト 云ヒ、 東ト 南トノ アヒダヲ
東南ト 云ヒ、 西ト 北トノ アヒ
ダヲ 西北ト 云ヒ、 西ト 南トノ
アヒダヲ 西南ト 云フ。 是等ヲ
スベテ 方角ト 云フ ナリ。
磁石ハ、 方角ヲ 見ル ウツハ

ナリ。 其ノ 針 ツ子ニ 北ヲ
指シテ、 イヅクヘ ユクモ カハル
コト ナシ。 故
ニ 太洋ヲ ワタ
リテ、 外國ニ タ
ビスル 人、 又ハ
深山ニ 入ル 人



ハ、ツ子ニ之ヲタツサヘリ。

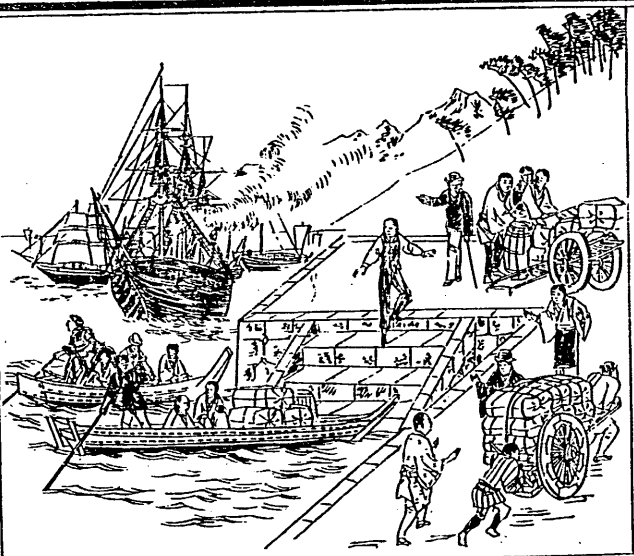
第二十一課。

港。荷物。烟。帆。交易。商人。

ここを、港なり。大船、小船、

おびたぐりくならびたり。荷

物をつみてゆくもあれむ、人



をのせて来るもあり。烟を

はくを、おようき

船まで、帆を

かけたるを、ほま

へ船なり。

太郎の父を、

ことしの春、お

ようき船よのり、許多の荷物を
 つみて、交易のためよ、あめりか
 と云ふ國へゆきたり。汝等
 も商人とならむ、太郎の父の
 如く、大洋をわたりて、外國人と
 交易せよ。

第二十二課

砂糖。甘蔗。汁。刈ル。暖國。

汝等ハ甚ダ砂糖ヲ好メドモ、

砂糖ハ何ヲ以テツクリタルカ

ヲ知レリヤ。砂糖ハ、甘蔗ト

云フ草ノ汁ニテツクリタル

モノナリ。



此ノツツハ、甘
 蔗ヲ刈ルトコ
 ロナリ。甘蔗
 ハ、暖國ニ生ズ
 ル草ニテ、其
 ノタケハ、一丈
 ヨリ一丈二尺ニ

イタリ、アルヒハニ丈ニイタル
 モアリ。其ノ形ハ、タウモロ
 コシニニタルモノナリ。
 汝等ハ、此ノ草ノ汁ガ、如何
 ニシテカ、ル砂糖ニナルカヲ
 知レリヤ。汝等ハ、之ヲ父母
 又ハ先生ニ學バザルベカラズ。

甘蔗ノ事ニ
 廿七

第二十三課。

姉。妹。天氣。往く。否。蜂。

求む。

姉の ねまつと、妹の ねすゑと、
打つれて 學校へ 往く。 けふも、
天氣も うらゝか まで、 野山の
けしき いと うるはし。

ねすゑの 曰く、 學校へ 往く
よりえ、 はねを つくが ねもしろ
からず や。
ねまつ の 曰く、 否、 否、 今も、
あそぶべき 時よ あらず。
此の 時 ねすゑも、 とびゆく
蜂を 見て、 又 姉よ かたりて



姉の曰く、否、彼も、あそびも

曰く彼の蜂も、まことよ、うらやまし。彼も、學校へも往かず、又、仕事をもすることなし。

出でたるよ、あらず、食物を求めんとて、とびゆくなり。

二人も、なほ、次第よ、往くほどよ、こゝよ、許多の蜂ども、あるひも、巢を作り、あるひも、食物を求めて、よねもなく、はたらくけり。おすゑも、之を見て、ふ

たゞび 何をもち いえず、直よ 學
校へ せゆきたり。

平野善兵衛



小學簡易新讀本卷の三終

V1208

明治二十一年二月十四日出版 自卷一
至卷四
明治二十一年六月一日訂正再版
明治二十一年五月三十日印刷

定價金七錢



發行兼
印刷者



編者

福島縣士族

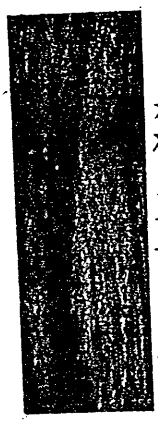
戸城傳七郎

本郷區真砂町二十二番地

東京府平民

平野善兵衛

日本橋區通四丁目七番地



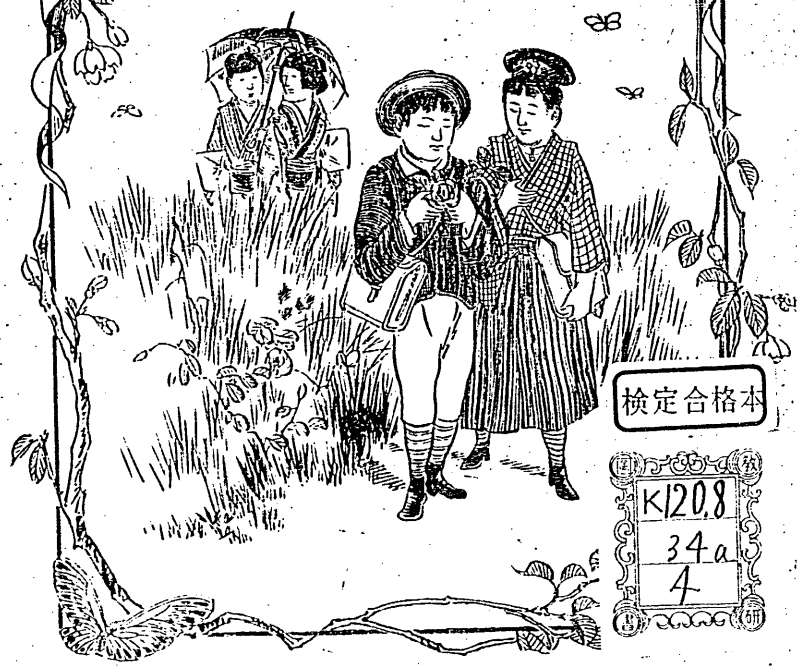
大日本教育館
 日 6
 冊 8
 架
 函 39

編 郎 七 傳 城 戶
 學 小
 本 讀 新 易 簡

野 牧
 房 書

東 京

四 卷



檢 定 合 格 本

K120.8
 34a
 4

大日本教育館
 一
 二
 一
 六
 冊 號 架 函